

播種期の違いによるビール大麦新品種 「はるみやび」の生育特性

農産部

1 背景、目的

ビール大麦における重要な土壌伝染性病害であるオオムギ縞萎縮ウイルスは、I～V型に分化することで被害が拡大しており、九州北部地域においても既存品種が罹病するⅢ型のウイルス系統による被害が拡大しています。そこで、オオムギ縞萎縮ウイルス系統の全てに抵抗性を有し、多収で、外観品質および麦芽品質が良好である新品種「はるみやび」を育成しました。本品種は、平成26年播きからビール会社との契約対象品種に認定され、一般栽培が可能となりました。

そこで、本品種の普及にあたり、播種時期の違い（やや早播、標準播、遅播）による生育特性を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 「はるみやび」は、いずれの播種期においても既存の2品種と比較して、穂数が多く、千粒重が重く、多収です。播種期別で見ると、標準播で最も多収となり、検査等級も「しゅんれい」並みに優れています。さらに、ビールの原料としての品質を示す麦芽総合評点が既存の2品種と同程度か、高い傾向です（表1）。
- 2) 「はるみやび」の被害粒発生割合は、標準播で最も低く、いずれの播種期でも「ほうしゅん」より低く、「しゅんれい」並みに低率です（図1）。一方、ビールの醸造工程において、低いほど好ましい麦汁中のβ-グルカン¹は、やや早播でのみ高くなる傾向にあります（図2）。
- 3) 「はるみやび」を栽培する際には、既存のビール大麦品種と同様、11月25日～12月5日に播種することで、高い収量性と、優れた外観品質及び麦芽品質を発揮します。一方、やや早播では、麦汁β-グルカンが高くなる傾向があるため避ける必要があります。

3 主要なデータなど

表1 播種期の違いによる「はるみやび」の生育・収量特性及び外観品質

播種期 目標出芽本数	品種名	成熟期 (月日)	穂数 (本/m ²)	千粒重 (g)	収量 (kg/a)	同左	検査	麦芽
						標準	等級	総合評点
						比		
						(%)		
やや早播 (11月15日播) 150本/m ²	はるみやび	5.20	486	45.3	40.8	95	2等下	67
	ほうしゅん	5.19	434	40.7	32.9	76	2等下	68
	しゅんれい	5.21	439	44.4	31.2	72	2等下	71
標準播 (11月25日播) 150本/m ²	はるみやび	5.23	477	45.5	43.1	100	2等上	77
	ほうしゅん	5.21	445	39.9	35.5	82	2等下	73
	しゅんれい	5.24	474	43.9	38.2	89	2等上	77
遅播 (12月14日播) 200本/m ²	はるみやび	5.27	361	47.3	35.4	82	等外上	78
	ほうしゅん	5.26	335	41.8	27.5	64	等外上	76
	しゅんれい	5.28	317	46.2	25.6	59	2等下	77

- 注) 1. 播種期()内は4ヶ年の平均播種日。
2. 同左標準比は、標準播「はるみやび」の収量を100とした数値。

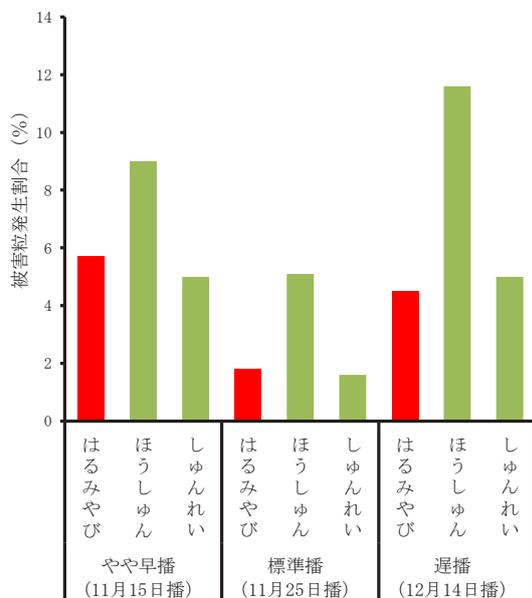


図1 播種期の違いによる「はるみやび」の被害粒発生割合

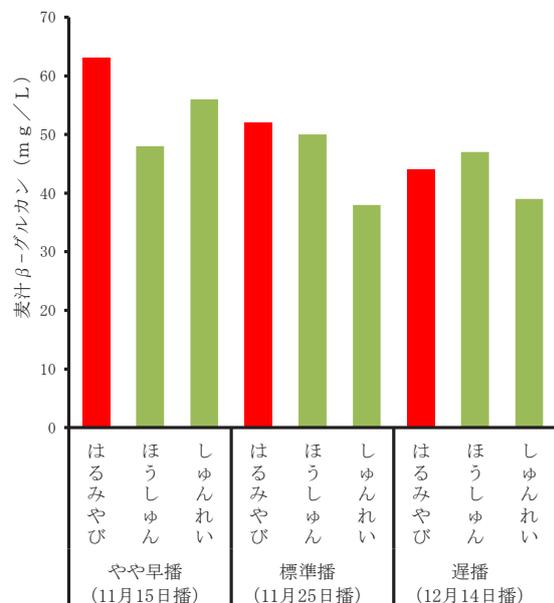


図2 播種期の違いによる「はるみやび」の麦汁β-グルカン